◇ 同好会　『歴史を歩く』２月１５日（木）晴れ　参加者１６名＋ヘルパー１名

～ＪＡＸＡで宇宙を覗いてきました。～

「今度の年末年始は宇宙に行こうか。」そんな夢のような時代がやってくるのでしょうか？
今日はミステリアスでありながら、現実味を帯びてきた宇宙の魅力を探訪します。

つくばエクスプレスで「つくば駅」へ。駅前から「荒川沖駅」行きバスで「筑波宇宙センター」へ。学園都市に相応しい整然とした街並みが続いている。葉の落ちた樹木から見えるつくばの空は青く、春のような暖かさが心地よい。正門を入ると、50 メートルもある実物大のＨ－Ⅱロケットが出迎えてくれる。よく知られるように日本の宇宙開発を担っているのが、宇宙航空研究開発機構「ＪＡＸＡ」で、なかでも中核になるのが「筑波宇宙センター」だ。ここは 1972 年に設置され、ロケットや人工衛星の開発や、国際宇宙ステーション「ISS」の運用管制を行っている。ここをガイド付きの見学ツアーに参加して、研究開発の一端を垣間見させてもらうことに。リストバンドを手首につけ、ＪＡＸＡバスで移動。各施設の出入り、バスの乗り降り、全てリストバンドをチェックして、人数を確認している。撮影禁止場所もありセキュリティは厳しい。

まず「宇宙飛行士養成エリア」へ。

目に入ってきたのが、映像などでよく見る白い宇宙服だ。船外活動の時に着る服で、背中には酸素や水、電池が入った生命維持装置が装着されている。重さは 120 ㎏。閉鎖空間での共同生活や、無重力やプールなどでの特殊な訓練を積んで、屈強な飛行士に養成されていく。

次は ISS の日本実験棟「きぼう」ISS の運用は 2000 年から始まっている。昨年の８月から「きぼう」に滞在している古川聡さんの活動を、きぼう運用管制室でライブで見ることができた。ISS に半年間滞在するようになった現在、補給機によって新鮮な野菜や果物が届くようになり、飽きがこないように食品のレパートリーも増えた。筋肉量や骨量の減少を防ぐために、毎日２時間運動をしているそうだ。

見学ツアー終了後、センター内食堂で団体メニューの「ハンバーグシチューセット」をいただく。（宇宙食のメニューがあるといいのになあ・・・）

午後は「スペースドーム」へ。館内はＪＡＸＡの歩みや宇宙テクノロジーで満載。本物のロケットエンジンや、時代を経るごとに大きくなっていく日本の歴代のロケットの模型。あの小惑星探査機「はやぶさ２」の実寸モデルもある。「きぼう」の実物大モデルの中に入ってみた。このスペースで数人が半年間共同生活をする。今は週休二日制で、ビデオ通話で家族との時間も取り入れているというが、ストレス溜まりそう・・・

熱心に説明してくれるガイドさんの言葉に聞き入るが、情報過多で私の脳内は大混乱。
宇宙飛行士になるには、秀才で体力抜群、メンタルも強いというイメージを抱いていたが、１番重要な事は『協調性』だそうだ。
妙に納得!!　　なぜか、ほっとした気持ちなった。

この原稿を書いている時に、テレビで H3 ロケットの打ち上げ成功を報じていた。日本のロケット開発はトラブルが続いていたので、ほんとうに良かった。おめでとう！

ご参加の皆さん、お疲れ様。ありがとうございました。

＜報告：関根悦子＞